

# 平成17年度舟入高等学校SELHi研究開発中間報告会 研究授業指導案

教 諭 佐藤 将記  
外国語指導助手 クレイグ・ネヴィット  
ナタリー・ヤンチャムナン

1. 授業名 『英語表現』
2. 期 日 10月28日(金)
3. 時 間 3 限
4. 場 所 東棟3階 304号教室
5. 対 象 2年10組 19名(普通科・国際コミュニケーションコース)
6. 内 容 グループディスカッション
7. 教 材 『How do you spell S-U-C-C-E-S-S』
8. 背 景

## (1) 教材観

「読む」、「考える」、そして「表現する」の流れが本科における基本であり、環境問題、国際関係、あるいはライフスタイルや友人といった、生徒たちに身近な題材を扱うことで、生徒たちの書くこと、話すことへの積極性を高めたい。各グループでのディスカッション内容は、グループ内のレポーター一役が集約し、全体に発表することでクラス全体のものとしている。

## (2) 生徒観

「パブリック・スピーチ」など、あらかじめ用意してきた内容を発表する場面、あるいは「2分間モノローグ」や「グループ・ディスカッション」といった即興で発言しなければならない場面など、英語を話さなければならない状況(forced situation)をできるだけ多く経験させることが、生徒たちの「話す」ことへの自信と積極性を高める。

## (3) 指導観

2年英語表現(2単位)では、(1)グループディスカッション、(2)エッセイライティング、(3)ショートターム・イベント(パブリックスピーチ、インフォーマルディベート、リサーチ&プレゼンなど)を柱に授業を展開している。各活動における有効性を高めるうえで、語彙力や基礎文法・構文の知識、あるいはレシテーションなど流暢さを高めるトレーニングがいかに重要なものであるかについても、認識を高めさせたい。

## 9. 学習指導計画

時	学習内容・学習活動
1 (本時)	グループディスカッション
2	エッセイピアリビジョン

## 10. 本時案

### (1) ねらい

- ① ディスカッションに積極的に参加しようとする態度を身につけさせる。
- ② 即興でのスピーキング力の養成を図る。
- ③ 英語を話し、書く活動の背景となる文化的、社会的な事柄に対する関心と理解を深める。

### (2) 準備物

(3) 学習過程

流れ	時間	活動内容	指導(○)と評価(◎)の留意点
導入	5分	<u>Two-minute Speech</u> (毎時行っているオープニング・アクティビティ)	○ペアワーク。与えられたトピックについて、モノローグの形式でパートナーに向かって2分間即興で話し続ける。  ◎話し手は2分間話し続けることが要求される。聞き手は、自分のパートナーの話した内容について伝えることができること。
展開	35分	<u>Discussion Part</u> (1) Reading Comprehension Check Quiz (5分)  (2) Brainstorming (5分)  (3) Group Discussion (25分)	○課題として与えられている文章 (How do you spell S-U-C-C-E-S-S)の内容把握に関するクイズ  ○クラス全体。トピックは“Success”。活発に発言できるようリードしていく。  ○3つのグループに分かれてのディスカッション。事前に配布されているクエッションシートに基づいて進行していく。進行役は教師。各グループであらかじめレポーター役を決めておく。
まとめ	10分	<u>Reporting</u> (10分)	○各グループでのディスカッションの結論をグループごとにレポーターが全体に報告する。  ◎発表を通じて何を感じたか、「今」を生きている私たちは何をすべきかをまとめる。